

国際ロータリー2580地区 RLI(PartⅡ)

10月8日、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、RLI(RotaryLeadership Institute)のPartⅡ講習が開催された。1992年に設立されたRLIの目的は「ロータリアンの自主性と卓越した指導性を涵養し、クラブの刷新性と柔軟性を育て、ロータリーを活性化することにある。クラブの特定のリーダーを養成することではなく、一人ひとりの会員の指導力を育むことで、クラブを活性化することが目的である。

RLIはPartⅠ～Ⅲまであり、各パート6セッションから成る。一日に50分6コマを受講する。PartⅡは「私たちのクラブ」がテーマである。当クラブからは石塚丈晴会長エレクトが受講した。各セッションは8名ほどが参加し、ファシリテーターが討論の流れを円滑にし、参加者の発言を促す。なお、小生はファシリテーターとして、セッション3「チームづくりとクラブコミュニケーション」を2・5時間目に担当した。長丁場であったが、心地よい疲労感に包まれ、価値ある一日であった。(小泉博明)



棚川恵温様 8月マンスリーレポート

派遣国 ベルギー

総合評価 5(良、楽しい)～1(悪、つらい) ★★★★★評価(5)

1.健康状態 5(良)～1(悪) ★★★★★評価(5)

毎日元気に朝10キロや筋トレなどをしてサッカーに備えている初めてのサッカーの練習をできて嬉しい。しかし最初の方は毎日お腹を壊して不快であったまあ慣れるため我慢です。

2.学校の状況(現地語習得状況) 5(良)～1(不可) ★★★★★評価(5)

フランス語を最近は本気で勉強しているため日常会話は難なくできるため後はみんなとの会話についていけるように頑張りたい。しかし現地の人の早さにはついて行くことは不可能なため発音を真似できるように頑張る。言語に自信をつけることが一番の留学を楽しむコツだと思う。

3.ホストファミリーとの関係 5(良)～1(悪) ★★評価(2)

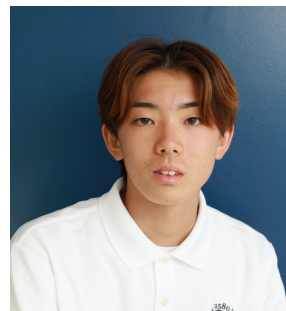
フランス語は少しづつ上達してきたことがわかったのか結構早口で話されてわかんない時に質問しても英語が分からずコミュニケーションがうまく行かなくて少し問題が起きたがこれからはルールを作ったため後は守るだけなため問題ない。ご飯のことをもう少し考慮してもらいたいと僕は思う。しかしとてもいい人たちなためもっといい関係になれるように頑張る。僕からももっと理解されるように頑張る。

4.ホストロータリークラブとの関係 ■例会出席回数 1回/月

最初の例会に行きみんなとかのコミュニケーションをとっている。親身になって考えてくれるため僕的には満足である。

5.その他近況等の報告

今は友達とはできて夜遊びに行ったりもしたりできるがまだ言葉があんまりわからないためもっと人のことを知るために言語を頑張りたい。こっちはみんなノリが良いため楽しい。案外日本人はプラスに働くことがわかって嬉しい。しかし喋られないとみんなと仲良くできないためもっと頑張りたい。



東京池袋豊島東ロータリークラブ 第12回例会 2025/10/16

3094回

Weekly Report



会長：榊原一久 幹事：佐藤美枝子 RI会長：フランチェスコ・アレツツォ 第2580地区ガバナー：中川雅雄

四字熟語でロータリー

修証一等

(しゅしょういっとう)

坐禅と悟りは一体であり、坐禅は単なる悟りの手段ではなく、坐禅の修行そのものが悟りの内容をあらわすという意味です。これをロータリーで考えるならば、奉仕活動は単なる奉仕の手段ではなく、日常のロータリー活動そのものが奉仕活動なのです。(小泉博明)

本日の例会

10月16日(木)12:30～13:30

会員卓話

10月23日・30日は休会です。

次回の例会

11月6日(木)12:30～13:45

米山・ロータリー財団フォーラム

10月9日 例会報告

司会	加古会員
開会点鐘	榊原会長
ロータリーソング	
ソングリーダー	石川会員
会員総数	30名
出席規定適用者数	24名
本日の出席者総数	20名
// 免除者出席数	2名
本日の出席率	76.92%

ゲスト

宮副 信也様

卓話者/

STUDIO201 代表

脇田 健裕様

石川会員ゲスト

会長報告

1 前回の例会はガバナー公式訪問でしたが、ガバナーより訪問の御礼のお手紙をいただきましたので、週報に掲載しております。

幹事報告

1 なし

ニコニコ

佐藤(美)会員 お祝い有難うございます。この年まで病気はするも元気に生きてこれました。

小泉会員 誕生日のお祝いありがとうございます。これからも、清く、正しく、美しく、笑顔で、感謝。

本日の合計額：10,000円

今年度ニコニコ累計額：127,000円



10月お誕生日

小泉博明会員・佐藤美枝子会員

第4回理事会報告

日時 2025年10月9日(木)11時～12時

議題

報告事項

①榊原会長より2025－2026年度9月会計報告
②国際ロータリー為替レート10月は1\$149円
③10－12月の例会日程が佐藤(美)幹事より説明があった。

10月

受付：石塚丈晴会員 野口昇兵会員 山本伸也会員

司会：中川 武会員 ニコニコ：里見雅行会員

写真：佐藤久雄会員 ソングリーダー：石川宜司会員



審議事項

- ①会員に対しての寄付金意向伺いを例会での幹事報告で行い実施する。希望の風奨学金については寄付金総額の不足額や奨学金制度の期限などの情報をウェブサイトで確認する。クラブへの寄付についてはひとり一万円以上を呼びかける。(前年度の赤字も補填期待)
- ②花蓮災害義援金について、里見社会奉仕委員長より友好クラブの台北東海ロータリークラブと同地区の台風、豪雨による自然災害で義援金として寄付を行いたいと趣旨説明があった。ニコニコ等を原資に5万円クラブとして実施することを承認。
- ③立教大学学生のアッシャー・アルピスさんより大学内でローターアクトクラブ設立を考えているらしく協力依頼があった。その依頼内容をもとに東京池袋西ロータリークラブの会員に情報提供をする
- ④会員増強のための特別例会開催の検討について、石川会員増強委員長を中心にクラブビジョン委員会とも連携し着手する。あわせて会員増強プロジェクトの設立
- ⑤2025－2026年度ビジターフィーについて、前年度のデータをもとに再作成する。入会予定者とは、入会申込書を提出した方と定義し、1度目は無料とし2回目以降は通常の金額を負担いただく。

10月9日 卓話



卓話者 宮副 信也様

「豊島区から発信、豊かで寛容な社会に向けて」

STUDIO201の設立と理念

私は、豊島区生まれ池袋育ちで、池袋駅東口にある平和堂薬局の4代目です。2020年、保有するビルのテナント撤退の際、壁面にアーティストの鈴木掌氏にウォールアートを描いていただいたことをきっかけに、STUDIO201を設立しました。STUDIO201の理念は、「創造的な活動を通して、個性や多様性の価値を発信し、豊かで寛容な社会をつくる」ことです。

共育プログラム「Kids = Artists」の概要

2022年より、「子ども」×「アート」×「まち」をキーワードにした共育プログラム「Kids = Artists ～すべてのキッズはアーティスト～」を主催しています。このプログラムは、子どもたちが地域社会と深く関わる3つの段階で構成されています。

①子どもたちによる制作(約2時間)

4名のアーティストが用意した大きなキャンバスに、子どもたちが自由に思いのまま絵を描きます。



②アーティストによる仕上げ(約1時間)

子どもたちが描いた絵を活かし、アーティスト達がライブパフォーマンスにより作品を完成させます。



③まちへの展示

年間に16枚制作されるアート作品は、街中のレストランや商業施設、オフィスビルなどで年間を通して回遊展示されます。これまでの主な展示実績として、RACINES FARM TO PARK(南池袋公園内)、サンシャイン60展望台てんぼうパーク、無印良品サンシャインシティアルパ店、Hareza池袋内パークプラザ、WACCA Ikebukuroなどが挙げられます。



「子ども」×「アート」×「まち」がもたらす相互効果

このプログラムは、「子ども」×「アート」×「まち」の3つの要素が有機的に結びつくことで、さまざまな相互作用と効果を生み出します。

①「子ども」と「アート」の関わり
(共育と感性の向上)

子どもたちは、アートに触れることで感性を磨き、創造性を育むことができます。また、自らが関わった作品が社会に認められる経験を通して、自己肯定感を高め、自信をつけることができます。一方、アーティスト側も、子どもの自由な発想や独創的なアイデアに触れ、新たな視点を獲得し、創造性を刺激される効果があります。

②「子ども」と「まち」の関わり
(地域社会への貢献と安心感)

完成した作品が地域に展示されることで、子どもたちは地元への愛着や、まちへの安心感を育みます。また、子どもたちが社会とつながる機会が生まれ、大人が子どもの成長を応援する場となることで、地域全体の活性化につながります。これは、将来の地域づくりを担う人材育成にも貢献します。

③「まち」と「アート」の関わり
(文化の定着と経済の活性化)

作品が街中の多様な場所で展示されることで、地域にアートカルチャーが定着し、芸術文化の振興につながります。また、展示実績を持つ企業・施設との連携を通じて、地域経済の活性化に貢献します。まちがアーティストに活躍の場を提供し支援することで、アートを通じて地域に誇りを持つシビックプライドの醸成にもつながります。

「豊かで寛容な社会」の実現

STUDIO201が定義する「寛容」とは、単に他者を受け入れるだけでなく、「分かち合う」と意味しています。私たちは、「Kids = Artists ～すべてのキッズはアーティスト～」をはじめとする様々な活動を通して、関わるすべての人々(子ども、アーティスト、企業、行政、地域の大人など)が「できることを、できる範囲で」分かち合う機会を創造しています。この小さな成功体験の積み重ねは、一人ひとりに自己肯定感に裏付けられた自信を与えます。そして、この自信を育んだ人々こそ、自身の心に宿る「たいまつ(火)の火(できること)」を惜しみなく分かち合う利他の精神を持つようになります。一つの小さな火はやがて周囲に大きな炎を生み出し、それが「豊かで寛容な社会」の実現につながると確信しています。



【参考】

STUDIO201

HP: <https://www.studio201kb.com/>Kids = Artists HP: <https://kids-artist.jp/>